発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平く～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

牛島 質 電話 融

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

閉店セー

！

無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす

パラワン島産 ほれ薬4,800

1/4スケール ットン

お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ

今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく

あやねの部屋

パタ パタ

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し 夜中…早速あやねちゃんに 使ってみた

はぁ

はぁ

カサッ

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日 僕は突然あやねちゃんに 呼び出され… 晴れて告白されたのである

…あの…

私と… 付きあってくれる？

しかも
うれしい事に…

はー

はー

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだあ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

ん…

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

わーい

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

はぁ
はぁ

そ…そうだねじゃあさ…

僕…ここで…あやねちゃんの裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！お願い！

……

…うん

あん♡

くぃっ

ムチ
ムチ

み～ん
み～ん

ミーン

ミ〜ン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うん キレイだよ あやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう 豚平くん…

ドキ

ドキ

ー

ちゅー
ちゅー
きゅっ
あ
うむ…
はむ
はむ
はぁ
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に
責められたら…
豚平くん…
くちゅ
くちゅ
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ
ズッ
今日はこれで五回目の挿入だったかな
グッチュ
ん
いい
あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている
グッチュ
昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった
グッチュ
ズッチュ
ズッチュ
はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！
ぼっ
ズッチュ
ズッチュ
もっと奥まで犯して…
はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
ジュッ
ボ
フウ
フン
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フウ
ふぅ
ふぅ
あぁん
やん
グチュ
グチュ
カッ
あんグチュ

はぁはぁはぁ

うっ

ケツ〜チュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツ〜チュ

ケツ〜チュ

はぁ

今日も帰りが遅くなりそうだ

はぁぁん

ビクン

ビクン

ビクン

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど参加していなかったこのイベントも今年はあやねちゃんと一緒だったのでとても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

はー

祭りも終盤に差し掛かった頃

はぁ

僕はもう我慢できなくなりひと気のないところへあやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ククイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レロロ
僕の…
舐めてくれる？
…うん…
いいよ
んふ♡
気持ちいい？
豚平くん
ふう
ふう

うっ…

あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…

ぐぷ

じゅぽ。

じゅぽ。

…ん

…んん

あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…

と…とっても気持ちいいよあやねちゃん

じゃあ…そろそろ…

今度はおっぱいでもしてあげる♡

ちゅぱっ

ん♡

ちゅぱ

んっ

ずちゅ

んん

えっ…

むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ〜
これは…！
うひ…
ビクン
レロレロ…
…た…たまらん！
ぷは〜
ぴゅ
ハア…
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

カチ

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる?

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

あやね

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

はぁはぁ…うん…♡

グイ

ぬりゅ

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

はっ

はぁん

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

あ、はぁあん

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ も…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

ヴヴヴヴ

あぁ

ぎゅっ

はぁはぁ

ぶるぶる

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

キャっ

キャん

もっと感じさせて
あげるからね

ヴヴ

ヴヴ

クリクリ

ビクッ

あっ

ズッ
あっ
やぁっ
ぐぐ
ぐりぐり
ヴヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ちゅぱ
ちゅぱ
ヴヴ
ヴヴ

と…豚平くん…

ごろん

はぁ

はっ

ギシ

焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ

はぁ

はぁ

豚平くんのおちんちん…

欲しい…

欲しい…欲しいよぉ…

ぴちゃ

にゅるん

…そろそろ頃合いかなふふふ…

じゃ…いくよ…あやねちゃん

くちゅ

ズぬ

うん…きてぇ…

ズリュ

あ…！奥に…

…っあ

ギュッ

あたるぅ…！

ギュッ

あぁ、すごいよぉ！

豚平くん！

はっ！

ズッ

はぁっ

ズッ

はぁ

ズッ

はぁん

あっ

気持ちいいっ！

ズッ

ズッ

あっ

あ！はぅん！

頭の中…おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ギュッ

ギュッ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前ー
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

ん？

んぐ

ん？

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平く～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

牛島 質 電話 融

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

閉店セー

！

無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす

パラワン島産 ほれ薬4,800

1/4スケール ットン

お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ

今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく

あやねの部屋

パタ パタ

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し 夜中…早速あやねちゃんに 使ってみた

はぁ はぁ

カサッ

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日 僕は突然あやねちゃんに 呼び出され… 晴れて告白されたのである

…あの…

私と… 付きあってくれる？

しかも
うれしい事に…

はー

はー

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん…

んっ

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

わーい

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

はぁ

はぁ

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

あん♡

そ…そうだね
じゃあさ…

僕…ここで…
あやねちゃんの
裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！
お願い！

……

…うん

みーん
みーん

ムチ

ムチ

ぐいっ

ミーン

ミーン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うん キレイだよ あやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう 豚平くん…

ドキ

ドキ

ー

ちゅー
ちゅー
きゅっ
あ
うむ…
はむ
はむ
はぁ
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に
責められたら…
くちゅ
くちゅ
豚平くん…
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…
ドキ
ドキ

あっ

今日はこれで五回目の挿入だったかな

ズッ

グッチュ

ん

いい

あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている

グッチュ

昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった

グッチュ

ズッチュ

ズッチュ

はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！

ぼっ

もっと奥まで犯して…

はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

ズッチュ

ズッチュ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
ジュッ
ボ
フウ
フン
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フウ
ふぅ
ふぅ
あぁん
やん
グチュ
グチュ
カッ
あんグチュ

はぁはぁはぁ

うっ

ケツチュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツチュ

ケツチュ

ケツチュ

はぁ

今日も帰りが遅くなりそうだ

はぁぁん

ビクン

ビクン

ビクン

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど参加していなかったこのイベントも今年はあやねちゃんと一緒だったのでとても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

はー

祭りも終盤に差し掛かった頃

はぁ

僕はもう我慢できなくなりひと気のないところへあやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ククイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レロロ
僕の…
舐めてくれる？
…うん…
いいよ
んふ♡
気持ちいい？
豚平くん
ふう
ふう

うっ…

あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…

ぐぷ

じゅぽ。

じゅぽ。

…ん

…んん

あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…

と…とっても気持ちいいよあやねちゃん

じゃあ…そろそろ…

今度はおっぱいでもしてあげる♡

ちゅぱっ

ん♡

ちゅぱ

んっ

ずちゅ

んん

えっ…

むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ〜
これは…！
うひ…
ビクン
レロレロ…
…た…たまらん！
ハア…
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ
ぷは〜
どぴゅ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる?

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

あやね

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

すっ

もっとぶっ太いのが
よかった？

はぁはぁ…うん…♡

グイ

ぬりゅ

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

はっ

はぁん

はぁあん

あっ

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

あぁ

ぎゅっ

ヴヴヴヴ

はぁはぁ

ぶるぶる

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

キャっ

キャん

もっと感じさせて
あげるからね

ビクッ

あっ

ヴヴヴヴ

クリクリ

ズッ
あっ
やぁっ
ぐぐ
ぐりぐり
ヴ ヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
ちゅぱ
ちゅぱ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ヴ
ヴ
ヴ

と…豚平くん…

ごろん

はぁ

はっ

ギシ

焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ

はぁ

はぁ

豚平くんのおちんちん…

欲しい…

欲しい…欲しいよぉ…

ぴちゃ

…そろそろ頃合いかなふふふ…

にゅるん

じゃ…いくよ…あやねちゃん

くちゅ

ズぬ

うん…きてぇ…

ズリュ

あ…！奥に…

…っあ

ギロッ

あたるぅ…！

ギロッ

あぁ、すごいよぉ！

豚平くん！

はっ！

はぁっ

ズッ

ズッ

はぁ

ズッ

はぁん

あっ

気持ちいいっ！

ズッ

ズッ

あっ

あ！はぅん！

頭の中…おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ギュッ

ギュッ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前ー
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

ん？

んぐ

ん？

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平く～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

牛島 質 電話 融

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

閉店セー

！

無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす

パラワン島産 ほれ薬4,800

1/4スケール ットン

お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ

今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく

あやねの部屋

パタ パタ

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し 夜中…早速あやねちゃんに 使ってみた

はぁ

はぁ

カサッ

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日 僕は突然あやねちゃんに 呼び出され… 晴れて告白されたのである

…あの…

私と… 付きあってくれる？

しかも
うれしい事に…

はー

はー

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん…

んっ

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

わーい

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

はぁ

はぁ

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

あん♡

そ…そうだね
じゃあさ…

僕…ここで…
あやねちゃんの
裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！
お願い！

……

…うん

ぐいっ

ムチ

ムチ

み～ん
み～ん

ミーン

ミ〜ン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うんキレイだよあやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう豚平くん…

ドキドキ

ー

ちゅー
ちゅー
きゅっ
あ
うむ…
はむ
はむ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に
責められたら…
はぁ
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ
豚平くん…
くちゅ
くちゅ
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ

今日はこれで五回目の挿入だったかな

ズッ

グッチュ

ん

いい

あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている

グッチュ

昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった

グッチュ

ズッチュ

ズッチュ

はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！

ぼっ

もっと奥まで犯して…

はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

ズッチュ

ズッチュ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
ジュッ
ポ
フウ
フン
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フウ
ふぅ
ふぅ
あぁん
やん
グチュ
グチュ
カッ
あんグチュ

はぁはぁはぁ

うっ

ケツ

チュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツ

チュ

ケツ

チュ

はぁ

はぁぁん

ビクン

ビクン

ビクン

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど参加していなかったこのイベントも今年はあやねちゃんと一緒だったのでとても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

祭りも終盤に差し掛かった頃

はー

はぁ

僕はもう我慢できなくなりひと気のないところへあやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ウウイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レレロロ
僕の…
舐めてくれる？
ん♡
…うん…
いいよ
気持ちいい？
豚平くん
ふう
ふう

うっ…

あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…

ぐぷ

じゅぽ。

じゅぽ。

…ん

…んん

あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…

と…とっても気持ちいいよあやねちゃん

じゃあ…そろそろ…

今度はおっぱいでもしてあげる♡

ちゅぱっ

ん♡

ちゅぱ

ん♡

すちゅ

んん

えっ…

むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ～
これは…！
うひ…
ビクン
レロレロ…
…た…たまらん！
ハア…
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ
ぷは～
ぴゅ
ど!!

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる?

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

あやね

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

はぁはぁ…うん…♡

グイ

ぬリゅ

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

はぁ

はっ

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

はぁんはぁあん

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

あぁ

ぎゅっ

ヴヴヴヴ

はぁはぁ

ぶるぶる

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

キャっ

キャん

もっと感じさせて
あげるからね

ビクッ

あっ

ヴヴヴヴ

クリクリ

ズッ
あっ
やぁっ
グリグリ
ヴ ヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
ぐぷ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ちゅぱ
ちゅぱ
ヴ
ヴ
ヴ

と…豚平くん…
ごろん
はぁ
焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ
豚平くんのおちんちん…
はぁ
欲しい…
はぁ
欲しい…欲しいよぉ…
ぴちゃ
はっ
…そろそろ頃合いかなふふふ…
にゅるん
ギシ
じゃ…いくよあやねちゃん…
くちゅ
ズぬぬ
うん…きてぇ…

ああ、すごいよぉ！
豚平くん！
はっ！
ズッ
ズッ
はぁ
ズッ
はぁっ
あ…！奥に…
ズッ
…っあ
ギッ
ギッ
あたるぅ…！
ギッ
はぁん
あっ
気持ちいいっ！
ズッ
ズッ
ズッ
あっ
あ！はぅん！
頭の中…おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ギュッ

ギュッ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前ー
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

ん？

んぐ

ん？

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平く～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

牛島 質 電話 融

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

閉店セー

！

無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす

パラワン島産 ほれ薬4,800

1/4スケール ットン

お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ

今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく

あやねの部屋

パタ パタ

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し 夜中…早速あやねちゃんに 使ってみた

はぁ はぁ

カサッ

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日 僕は突然あやねちゃんに 呼び出され… 晴れて告白されたのである

…あの…

私と… 付きあってくれる？

しかも
うれしい事に…

はー

はー

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん…

んっ

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

わーい

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

はぁ

はぁ

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

あん♡

そ…そうだねじゃあさ…

僕…ここで…あやねちゃんの裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！お願い！

……

…うん

ぐいっ

ムチ

ムチ

み～ん
み～ん

ミーン

ミーン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うん キレイだよ あやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう 豚平くん…

ドキ

ドキ

ー

ちゅー
ちゅー
うむ…
はむ
はむ
あ
きゅっ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に責められたら…
はぁ
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ
くちゅ
くちゅ
豚平くん…
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ

今日はこれで五回目の挿入だったかな

ズッ

グッチュ

ん

いい

あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている

グッチュ

昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった

グッチュ

ズッチュ

ズッチュ

はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！

ぼっ

もっと奥まで犯して…

はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

ズッチュ

ズッチュ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズッポ
ジュッポ
ズッポ
ズッポ
フゥ
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フゥ
フン
あぁん
やん
グチュ
グチュ
ふぅ
ふぅ
カッ
あんグチュ

はぁ はぁ はぁ

うっ

ケツ チュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツ チュ

ケツ チュ

はぁ

今日も帰りが遅くなりそうだ

ビクン

ビクン

はぁぁん

ど…

ど…

う?

ど…

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど参加していなかったこのイベントも今年はあやねちゃんと一緒だったのでとても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

祭りも終盤に差し掛かった頃

はー

はぁ

僕はもう我慢できなくなりひと気のないところへあやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ウウイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レレロロ
僕の…
舐めてくれる？
ん♡
…うん…
いいよ
気持ちいい？
豚平くん
ふう
ふう

うっ…

あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…

ぐぷ

じゅぽ。

じゅぽ。

…ん

…んん

あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…

と…とっても気持ちいいよあやねちゃん

じゃあ…そろそろ…

今度はおっぱいでもしてあげる♡

ちゅぱっ

ん♡

ちゅぱ

んっ

ずちゅ

んん

えっ…

むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ〜
これは…！
うひ…
ビクン
レロレロ…
…た…たまらん！
ハア…
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ
ぷは〜
どぴゅ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる?

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

あん

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

くちゅくちゅ

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

あやね

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

はぁはぁ…うん…♡

グイ

ぬりゅ

あやね

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

中村

はぁ

はっ

はぁん

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

はぁあん

あっ

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ も…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

あぁ

ぎゅっ

ヴヴヴヴ

はぁはぁ

ぶるぶる

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

キャっ

キャん

もっと感じさせて
あげるからね

ビクッ

あっ

ヴヴヴヴ

クリクリ

ズッ

あっ
やぁっ

グ
グリリ

ヴ
ヴ

むっふっふ…

はっ

はっ

じゅわ

ぐぷ

ちゅぱ
ちゅぱ

はぁ
はぁ

もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…

ウヴ

ウヴ

と…豚平くん…
ごろん
はぁ
焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ
豚平くんのおちんちん…
はぁ
欲しい…
はぁ
欲しい…欲しいよぉ…
ぴちゃ
…そろそろ頃合いかなふふふ…
にゅるん
はっ
ギシ
じゃ…いくよ…あやねちゃん
くちゅ
ズぬ
うん…きてぇ…

ああっ
すごいよぉ！
豚平くん！
はっ！
はぁっ
はぁ
ズッ
ズッ
ズッ
あ…！
奥に…
ズッ
ズッ
…っあ
ギッ
ギッ
あたるぅ…！
ギッ
ギッ
はぁん
あっ
気持ちいいっ！
あっ
あ！はぅん！
頭の中…
おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ギュッ

ギュッ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前ー
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

ん？

んぐ

んっ

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

ん？

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平く～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

牛島 質 電話 融

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

閉店セー

！

無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす

パラワン島産 ほれ薬4,800

1/4スケール ットン

お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ

今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく

あやねの部屋

パタ パタ

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し 夜中…早速あやねちゃんに 使ってみた

はぁ

はぁ

カサッ

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日 僕は突然あやねちゃんに 呼び出され… 晴れて告白されたのである

…あの…

私と… 付きあってくれる？

しかも
うれしい事に…

はー

はー

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん…

んっ

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

わーい

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

そ…そうだねじゃあさ…

僕…ここで…あやねちゃんの裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！お願い！

……

…うん

はぁ

はぁ

あん♡

くにゅっ

ムチ

ムチ

み～ん
み～ん

ミーン

ミーン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うんキレイだよあやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう豚平くん…

ドキドキ

ー

ちゅー
ちゅー
きゅっ
あ
うむ…
はむ
はむ
はぁ
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に
責められたら…
豚平くん…
くちゅ
くちゅ
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ
今日はこれで五回目の挿入だったかな
ん
いい
あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている
昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった
はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！
ほっ
もっと奥まで犯して…
はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
ジュッ
ボ
フウ
フン
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フウ
ふぅ
ふぅ
あぁん
やん
グチュ
グチュ
グッ
あんグチュ

はぁ はぁ はぁ

うっ

ケツ チュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツ チュ

ケツ チュ

はぁ

今日も帰りが遅くなりそうだ

ビクン

ビクン

はぁぁん

ど…

ど…

う?

ど…

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど参加していなかったこのイベントも今年はあやねちゃんと一緒だったのでとても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

はー

祭りも終盤に差し掛かった頃

はぁ

僕はもう我慢できなくなりひと気のないところへあやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ケケイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レレロロ
僕の…
舐めてくれる？
ん♡
…うん…
いいよ
気持ちいい？
豚平くん
ふぅ
ふぅ

うっ…

あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…

ぐぷ

じゅぽ。

じゅぽ。

…ん

…んん

あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…

と…とっても気持ちいいよあやねちゃん

じゃあ…そろそろ…

今度はおっぱいでもしてあげる♡

ちゅぱっ

ん♡

ちゅぱ

んっ

ずちゅ

んん

えっ…

むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
これは…！
ちゅ～
うひ…
ビクン
レロレロ…
…た…たまらん！
ぷは～
ぴゅ
ハア…
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あやね

今から体育準備室に来れる？

あ

ガララ

体育準備室

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる?

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

あやね

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

あやね

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

はぁはぁ…うん…♡

ゲイ

ぬりゅ

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

はぁ

はっ

はぁん

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

あぁん

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ も…もっと…もっとぉ…

はぁはぁ…うん…♡

グイ

ぬリュ

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

はぁ

はっ

はぁん

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

はぁあん

あっ

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ も…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

あぁ

ぎゅっ

ヴヴヴヴ

はぁはぁ

ぶるぶる

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

キューっ

キャん

もっと感じさせて
あげるからね

ビクッ

あっ

ヴヴヴヴ

クリクリ

ズッ
あっ
やぁっ
グリグリ
ヴ
ヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
ぐぃ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ちゅぱ
ちゅぱ
ヴ
ヴ
ヴ

と…豚平くん…

ごろん

はぁ

はっ

ギシ

焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ

はぁ

はぁ

豚平くんのおちんちん…

欲しい…

欲しい…欲しいよぉ…

ピチャ

…そろそろ頃合いかなふふふ…

にゅるん

じゃ…いくよあやねちゃん…

くちゅ

ズぬ

うん…きてぇ…

ああっ
すごいよぉ！
豚平くん！
はっ！
はぁ
ズッ
ズッ
はぁっ
ズッ
ズッ
あっ
あ！はぅん！
頭の中…
おかしくなっちゃうよっ！
ズッ
ズッ
あっ
気持ちいいっ！
はぁん
ズッ
あたるぅ…！
ズッ
…っあ
あ…！
奥に…
ズッ
ズッ

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ギュッ

ギュッ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前ー
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

ん？

んぐ

ん？

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
豚王
邪魔ver
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

豚平く～ん

今日も
いっしょに帰ろ♡

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった
僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…
牛島
質
電話
閉店セー
!
無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす
パラワン島産
ほれ薬4,800
1/4スケール
ットン
お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ
今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく
僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…
半信半疑で薬を作成し夜中…早速あやねちゃんに使ってみた
はぁ
はぁ
カサッ
ありがとう質屋のおじさん!
すると次の日 僕は突然あやねちゃんに呼び出され… 晴れて告白されたのである
…あの…
私と…付きあってくれる?

しかも
うれしい事に…

はー

はー

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

ん…

んっ

レロ…

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

わーい

きゃっ
きゃっ
きゃっ

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

そ…そうだねじゃあさ…

僕…ここで…あやねちゃんの裸…みたいなぁ

ピッ

え…

…ね！お願い！

……

…うん

みーん
みーん

はぁ

はぁ

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

あん♡

くぱぁ

ムチ

ムチ

ミーン

ミ〜ン

こ…これでいい？

豚平くん…

ミーン

…うん キレイだよ あやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう 豚平くん…

ドキ

ドキ

ー

ちゅー
ちゅー
きゅっ
あ
うむ…
はむ
はむ
はぁ
はぁ…
ぴちゃ
ぴちゃ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に
責められたら…
くちゅ
くちゅ
豚平くん…
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ
今日はこれで五回目の挿入だったかな
ズッ
グッチュ
ん
いい
あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている
グッチュ
昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった
グッチュ
ズチュ
ズチュ
はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！
ぼっ
もっと奥まで犯して…
はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ
ズッチュ
ズッチュ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズッポ
ジュッポ
ズッポ
ズッポ
フウ
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フウ
フン
あぁん
やん
ガチュ
ガチュ
ふぅ
ふぅ
ガッ
あんガチュ

はぁはぁはぁ

うっ

ク゛ッチュ

ク゛ッチュ

ク゛ッチュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

今日も帰りが遅くなりそうだ

ビクン

ビクン

はぁぁん

ど゛ぐ

ど゛ぐ

ど゛ぐん

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど参加していなかったこのイベントも今年はあやねちゃんと一緒だったのでとても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

祭りも終盤に差し掛かった頃

はー

はぁ

僕はもう我慢できなくなりひと気のないところへあやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ケケイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レレロロ
僕の…
舐めてくれる？
…うん…
いいよ
んふ♡
気持ちいい？
豚平くん
ふぅ
ふぅ

うっ…

あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…

ぐぷ

じゅぽ。

じゅぽ。

…ん

…んん

あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…

と…とっても気持ちいいよあやねちゃん

えっ…

じゃあ…そろそろ…

今度はおっぱいでもしてあげる♡

ちゅば

ん♡

ん♡

ずちゅ

ちゅば

ん♡

むーゅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ～
これは…！
うひ…ビクン
レロレロ…
はあ…
…た…たまらん！
ハア…
ハア
ハア
ハア
ハア
ぷは～
ぴゅ
ど!!
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

くちゅ

くちゅ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅうう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

カチ

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる？

高

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

あやね

ねぇ…
豚平くぅん
もっと…
…はげしく
…お願い

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

ずっ

もっとぶっ太いのが
よかった？

はぁはぁ…うん…♡

グイ

ぬりゅ

あやね

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

中村

はぁ

はっ

はぁんはぁあんあっ

ズッポ

ズッポ

ズッポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

あぁ

ぎゅっ

ヴヴヴヴ

はぁはぁ

ぶるぶる

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

きゃっ

キャん

もっと感じさせて
あげるからね

ビクッ

あっ

ヴヴヴヴ

クリクリ

ズッ
あっ
やぁっ
グリリ
ヴ
ヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
ちゅぱ
ちゅぱ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ヴ
ヴ
ヴ

ごろん

と…豚平くん…

はぁ

はっ

ギシ

焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ

はぁ

はぁ

豚平くんのおちんちん…

欲しい…

欲しい…欲しいよぉ…

ピチャ

…そろそろ頃合いかなふふふ…

にゅるん

じゃ…いくよ…あやねちゃん

くちゅ

ズぬ

うん…きてぇ…

ズリュ

あ…！奥に…

…っあ

ギリッ

あぁ、すごいよぉ！

豚平くん！

はっ！

ズッ

はぁっ

ズッ

はぁ

あたるぅ…！

ギリッ

はぁん

あっ

気持ちいいっ！

ズッ

ズッ

あっ

あ！はぅん！

頭の中…おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

あぁぁぁぁぁぁーッ

ドクン

あやねちゃん…

ぐっ

ギュッ

ギュッ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でSEXをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前―
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

んっ

んぐ

この夢の様な時間も
ないつまでも続くわけでは
いのだ

ん？

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平くぅ～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

牛島 質 電話 融

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

閉店セー

！

無意識のうちに意中のあの子の秘部がうずきだす

パラワン島産 ほれ薬4,800

1/4スケール ットン

お客さん運がいいね そいつは昨日仕入れたばかりの逸品さ

今朝まで三本あったんだが… そいつが最後の一本だよ …くく

あやねの部屋

パタ パタ

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し 夜中…早速あやねちゃんに 使ってみた

はぁ

はぁ

カサッ

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日 僕は突然あやねちゃんに 呼び出され… 晴れて告白されたのである

…あの…

私と… 付きあってくれる？

しかも
うれしい事に…

はー

はー

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん…

んっ

ビクッ

わーい

キャッ
キャッ

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

はぁ

はぁ

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

あん♡

そ…そうだねじゃあさ…

僕…ここで…あやねちゃんの裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！お願い！

……

…うん

ムチ

ムチ

ぐいっ

み～ん
み～ん

ミーン

ミーン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うん キレイだよ あやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう 豚平くん…

ドキドキ

ハー

きゅっ
あ
ちゅー
ちゅー
うむ…
はむはむ
はぁ
は…
ぴちゃ
ぴちゃ
ドン
あっ
ダメ…
クリクリ
そんな一緒に責められたら…
くちゅくちゅ
豚平くん…
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ
今日はこれで五回目の挿入だったかな
ん
いい
あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている
昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった
はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！
ぼっ
もっと奥まで犯して…
はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
ジュボ
ジュボ
フウ
フウ
フン
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
ふぅ
ふぅ
あぁん
やん
グチュ
グチュ
グチュ
あんグチュ

はぁはぁはぁ

うっ

ケツ

チュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツ

チュ

ケツ

チュ

はぁ

はぁぁん

ビクン

ビクン

ど

ど

ど

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど
参加していなかったこのイベントも
今年はあやねちゃんと一緒だったので
とても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

祭りも終盤に差し掛かった頃

はー

はぁ

僕はもう我慢できなくなり
ひと気のないところへ
あやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ケケイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レレロロ
僕の…
舐めてくれる？
…うん…
いいよ
んふ♡
気持ちいい？
豚平くん
ふぅ
ふぅ

うっ…
あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…
ぐぷ
じゅぽ。
じゅぽ。
…ん
…んん
あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…
と…とっても気持ちいいよあやねちゃん
じゃあ…そろそろ…
今度はおっぱいでもしてあげる♡
えっ…
ちゅぱ
ん♡
ん
ずちゅ
ちゅぱ
ん
むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ～
うひ…
ビクン
これは…！
レロレロ…
…た…たまらん！
ぷは～
ぴゅ
ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅうう

学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した

現代文

現代文(改訂版)

カチ

そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる？

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

ねぇ…
豚平くぅん…
もっと…
…はげしく
…お願い

あやね

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

はぁはぁ…うん…♡

ゲイ

ぬりゅ

あやね

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

じゅる

じゅる

まだだよもっとぐちょぐちょにしないとね

中太中

はぁ

はっ

はぁん

はぁあぁん

あっ

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよも…もっと…もっとぉ…

むふふ…
あやねちゃんの感じてる姿…とってもかわいいよ
あぁ
ぎゅっ
ヴヴヴヴ
はぁはぁ
ぶるぶる
おしりの穴もヒクヒクしてるよこっちにもあげるね
ヒクヒク
キャっ
キャん
もっと感じさせてあげるからね
ヴヴヴヴ
クリクリ
ビクッ
あっ

ズッ
あっ
やぁっ
ぐぐ
りり
ヴヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
ぐぃ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ちゅぱ
ちゅぱ
ヴヴ
ヴヴ

と…豚平くん…

ごろん

はぁ

はっ

ギシ

焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ

はぁ

はぁ

豚平くんのおちんちん…

欲しい…

欲しい…欲しいよぉ…

ピチャ

…そろそろ頃合いかなふふふ…

にゅるん

じゃ…いくよ…あやねちゃん

くちゅ

ズぬぬ

うん…きてぇ…

あぁ、すごいよぉ！
豚平くん！
はっ！
ズッ
ズッ
はぁっ
ズッ
はぁ
あ…！奥に…
ズッ
…っあ
あたるぅ…！
あっ
気持ちいいっ！
はぁん
あっ
あっ
あ！はぅん！
頭の中…おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ぎゅぎゅ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前―
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

んっ

んぐ

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

ん？

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん

発
情
中
るなたーく

あやねちゃん…
いつ見てもかわいいなぁ～

普段はツンとして男子達を
いっさい寄せつけないオーラを
出してるけど…
時折り見せる笑顔がたまんない
んだよね…

この写真は
その千載一遇のチャンスを捉えた
正に至宝の一枚…

ファンクラブ(非公認)の連中が
大金を積んでも決して首を立てに
振らずに守り抜いた僕の最後の希望…！

だがそれも昔の話…

今日も
いっしょに帰ろ♡

豚平く～ん

なぜなら…

僕は今…
あやねちゃんと
付き合っている！

きっかけは些細な事だった

僕がいつものように質屋で掘り出し物を漁っていると…

僕はソフビ人形を断腸の思いで諦め…

半信半疑で薬を作成し夜中…早速あやねちゃんに使ってみた

ありがとう質屋のおじさん！

すると次の日僕は突然あやねちゃんに呼び出され…晴れて告白されたのである

しかも
うれしい事に…

はー

はー

じゃ…足開いて
よく見せて…

すごい…
トロトロだぁ…これ
汗じゃないよね？

あ…
そんなに見ないで…
恥ずかしいよ

ひょっとして…
またしたいの？
あやねちゃん

昼休みにも
したばかりなのに…

この薬は性欲を増幅させる効能も
あるらしく…昨日からあやねちゃんは
何度も僕を求めてくる

ん…

んっ

レロ…

わーい

キャッ
キャッ

ね…
ねぇ…豚平くん…

もっと…二人きりになれる所に行かない？

僕はあやねちゃんに連れられ山の奥まで入っていった

しばらく歩くと静かな川辺があり僕らはそこに腰を下ろす事にした

み～ん
み～ん

はぁ

はぁ

ここは子供の頃よく一人になりたい時に来てた秘密の場所なの…

ここなら…誰も来ないから…人目も気にならない…し…

あん♡

そ…そうだねじゃあさ…

僕…ここで…あやねちゃんの裸…みたいなぁ

ぴっ

え…

…ね！お願い！

……

…うん

ぐいっ

ムチ

ムチ

み～ん
み～ん

ミーン

ミーン

こ…これでいい？

ミーン

豚平くん…

…うん キレイだよ あやねちゃん

やっぱり…恥ずかしいよう 豚平くん…

ドキ

ドキ

ー

ちゅー
ちゅー
うむ…
はむ
はむ
きゅっ
あ
はぁ
は…
ぴちゃ
ぴちゃ
あっ
ダメ…
ドン
クリクリ
そんな一緒に
責められたら…
豚平くん…
くちゅ
くちゅ
ドキ
ドキ
あたし…
…もう…
ガマンできないよ…

あっ

今日はこれで五回目の挿入だったかな

ん

いい

あやねちゃんと付き合うようになってから帰りは送迎バスには乗らず2人でデートするのが日課になっている

昨日は映画館で挿入…おとといは神社の物陰でフェラチオしてもらった

はぁはぁ…すごい…いっぱい入ってくるよ豚平くん！

ぼっ

もっと奥まで犯して…

はぁはぁう…うん！じゃあ…全力でいくよ

うおおお
フン!
あ…はぁん…
豚平くんのぶっといチンポ…
…とっても気持ちいいのぉ…
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
ミシュッ
ホ
フウ
フウ
もっとぉ…
もっと…ズボズボしてぇ…
フン
ふぅ
ふぅ
あぁん
やん
クチュ
クチュ
カッ
あんクチュ

はぁはぁはぁ

うっ

ケツ〜チュ

あ…あやねちゃん…
も…もう…いくよっ！
また…
中に出していい…?!

はぁ

う…うん…
いっぱい豚平くんの…
ちょうだいっ！
あたしも…いっしょに…
イクからぁ…
…きてぇ…！

はぁ

ケツ〜チュ

ケツ〜チュ

はぁ

今日も帰りが遅くなりそうだ

ビクン

ビクン

はぁぁん

ど〜ん

ど〜ん

う?

おしっ

7月12日(日)

今日は村の花火大会の日

小学生の時以来全くといっていいほど
参加していなかったこのイベントも
今年はあやねちゃんと一緒だったので
とても楽しい時間を過ごす事ができた

ドーン

ドーン

はー

祭りも終盤に差し掛かった頃

はぁ

僕はもう我慢できなくなり
ひと気のないところへ
あやねちゃんを連れて行った

はぁはぁ…
あ…あやねちゃん…
あ
ケケイイ
僕…さっきから
あそこがもう…
ギンギンなんだよね…
はぁ
はぁ
レレロロ
僕の…
舐めてくれる？
…うん…
いいよ
んふ♡
気持ちいい？
豚平くん
ふう
ふう

うっ…
あやねちゃんは僕のチンポの根本を掴むと喉の奥深くまで押し込んだ…
ぐぷ
じゅぽ。
じゅぽ。
…ん
…んん
あやねちゃんの熱い唾液と少し荒い鼻息に攻め立てられ僕の尿道は早くも決壊寸前だったが一発ハメるまでは…と歯を食いしばってあやねちゃんの攻めから射精を耐えた…
と…とっても気持ちいいよあやねちゃん
じゃあ…そろそろ…
今度はおっぱいでもしてあげる♡
えっ…
ちゅぱ
ん♡
ん
ずちゅ
ちゅぱ
ん
むーぅ

ん♡
う…ぐっ…
ちゅぱ
ちゅぱ
もぐ
ちゅ～
これは…！
うひ…
ビクン
レロレロ…
…た…たまらん！
ぷは～
ぴゅ
ハア
ハア
ハア
ハア
ハア
…もう限…界…！
うっ！
ビクッ

7月13日(月)
今日はいつもより早起きして
一本早いバスで通学

今日はあやねちゃんにお願いして
1日ノーパンで過ごしてもらう
事にした

ガタン

はぁ

はぁ

別に昨日の事を根に持ってるわけじゃないけど…
なんとなくあやねちゃんにしてやられた感じが
あったからか…
ちょっとあやねちゃんに意地悪したくなったのだ

この時間帯はまだほとんど
人が居ないんだよね

くちゅ

くちゅ

学校までの道中 全然生徒が乗る気配が
無かったので僕はあやねちゃんの
オマンコをずっと舐めていた
運転手さんがたまに訝しげにこちらを
気にしてたけど僕達は全然気にしなかった

むちゅうう

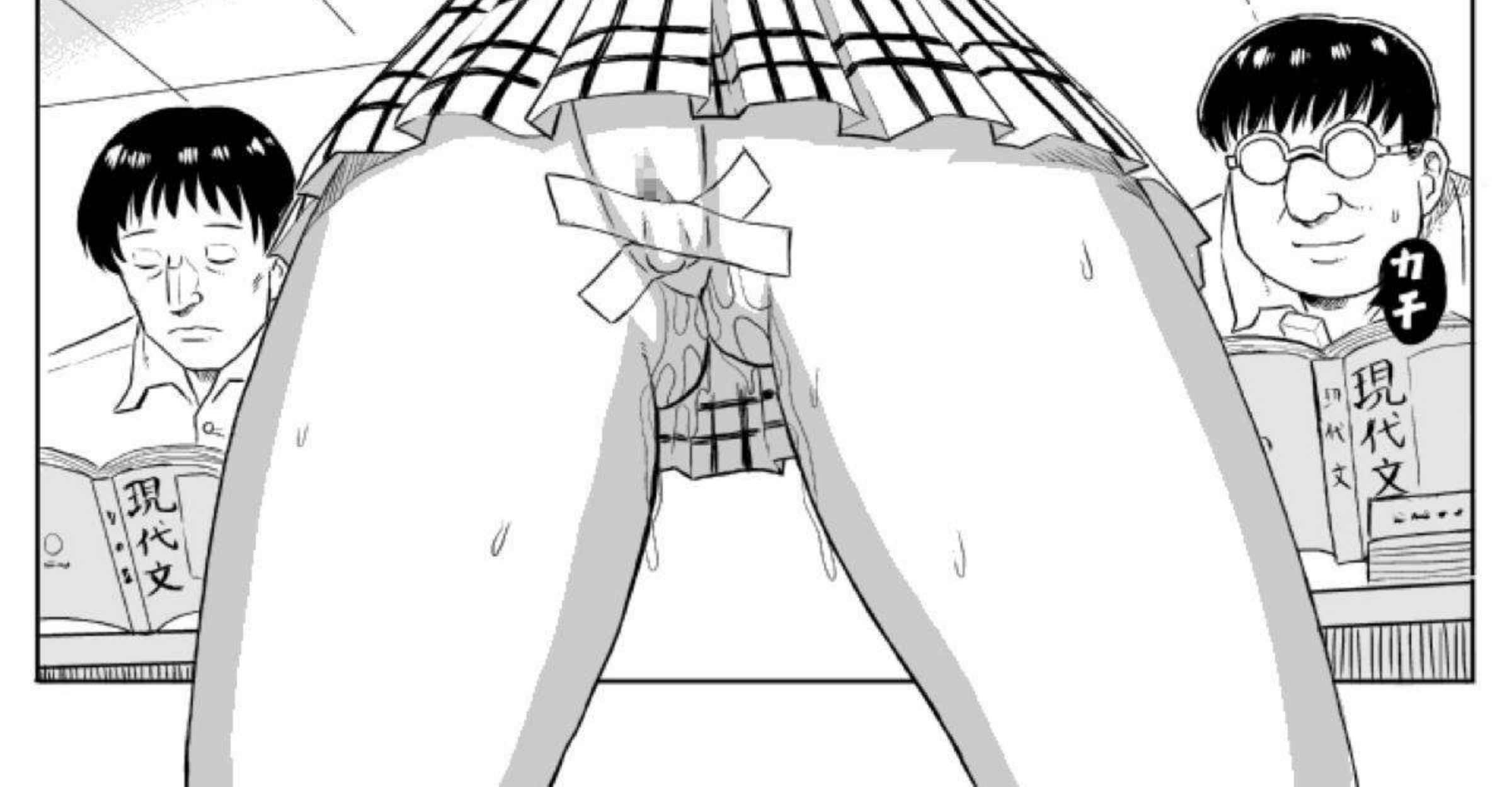
学校では僕とあやねちゃんが付き合ってることは秘密にしているので教室では僕達はほとんどしゃべる事はない

あやねちゃんはいつものように自分の席でツンとして周囲の人を寄せ付けないでいる

授業中…僕はそんな彼女にちょっとしたイタズラをする

昨日徹夜で作った特製の静音ローターで…

スイッチを入れるたびに彼女は一瞬ピクッと肩を震わせる…もちろん僕以外誰も気付いていない僕はそのわずかに曇らせる彼女の表情を楽しみながら ぐっしょり愛液まみれになっているであろう彼女のスカートの中を想像した



そんな事をしてしばらく焦らしていると…

♪~

4限目の水泳の授業が終わった頃あやねちゃんからメールがきた

あ

あやね

今から体育準備室に来れる？

ガララ

体育準備室

部屋に入った時から
あやねちゃんは少し興奮していた…

きっと3限目まで
ローター入れっぱなしだったから
ガマン出来なくなったんだろう

キュッ

あやね

僕はわざともったいぶる様に
ネチネチとおっぱいや太ももを責めると
あやねちゃんはおねだりするような眼で
僕を見つめ返してくる

あん

くちゅくちゅ

ねぇ…
豚平くぅん…
もっと…
…はげしく
…お願い

あやね

んん？
どうしたの
あやねちゃん？

ムフー
あのローターじゃ
もの足りなかった？

もっとぶっ太いのが
よかった？

ずっ

はぁはぁ…うん…♡

ゲイ

ぬりゅ

あやね

もっと…ぶっといの…豚平くんの…ほしいよ…

じゅる

じゅる

まだだよ もっとぐちょぐちょにしないとね

中村中

はぁ

はっ

はぁん

はぁあん

ズポ

ズポ

ズポ

豚平くんの舌…ヌメヌメして…気持ちいいよ…もっと…もっとぉ…

ヴヴヴヴ

むふふ…
あやねちゃんの
感じてる姿…
とってもかわいいよ

あぁ

ぎゅっ

はぁはぁ

ヴヴ

クリクリ

もっと感じさせて
あげるからね

ビクッ

あっ

おしりの穴も
ヒクヒクしてるよ
こっちにもあげるね

ヒクヒク

キャっ

キャん

ズッ
あっ
やぁっ
ぐぐ
りり
ヴ
ヴ
むっふっふ…
はっ
はっ
じゅわ
ぐぃ
はぁ
はぁ
もう…
だめぇ……また…
…イ…イク…
ちゅぱ
ちゅぱ
ヴ
ヴ
ヴ
ヴ

と…豚平くん…

ごろん

はぁ

はっ

ギシ

焦らさないで…もう…ガマンできないよぉ

はぁ

はぁ

豚平くんのおちんちん…

欲しい…

欲しい…欲しいよぉ…

ピチャ

…そろそろ頃合いかな ふふふ…

にゅるん

じゃ…いくよ…あやねちゃん

くちゅ

ズぬ

うん…きてぇ…

ああ、すごいよぉ！

豚平くん！

はっ！

ズッ

ズッ

はぁっ

ズッ

はぁ

あっ

あ…！

奥に…

ズッ

ズッ

…っあ

ギュッ

ギュッ

あたるぅ…！

はぁん

あっ

気持ちいいっ！

ズッ

ズッ

あっ

あ！はぅん！

頭の中…おかしくなっちゃうよっ！

あはぁッ

ドクン

あぁぁぁぁぁぁーッ

あやねちゃん…

ぐっ

ちゅ。

結局僕達は昼休みの間
ずっと準備室でＳＥＸをした

予鈴のチャイムが鳴る数分前―
僕のちんぽを綺麗に舐めて
くれてるあやねちゃんを見て
ぼくはちょっぴり切なくなった

んっ

んぐ

この夢の様な時間も
いつまでも続くわけでは
ないのだ

ん？

あの薬の効き目は
一体いつまでもつの
だろう…

あの質屋…
もうやってないだろうなぁ…

そんな事を思いながら
僕はあの怪しい質屋の
主人の言葉がなんとなく
気になっていた

ガラ

じゃあ…また後でね
豚平くん